

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：32668

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530763

研究課題名(和文) アジアのコミュニティを核とする災害リスク管理ソーシャルワーク人材育成に関する研究

研究課題名(英文) Study on human resources development for community based disaster risk management of Asia

研究代表者

山口 幸夫 (YAMAGUCHI, Yukio)

日本社会事業大学・社会事業研究所・特任准教授

研究者番号：40440698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：社会開発的ソーシャルワークの視点からのコミュニティを核とする災害リスク管理人材育成プログラムを開発するための以下の知見を得た。復興支援活動は、現地の被災した人びと主体で行い、復興支援への被災者の参加を最大限促進するものでなければならない。ソーシャルワーク専門職はあらゆるセクターでの復興支援について、コミュニティそのものが活動し、主体的に関わり、管理できるような環境を整える。SWはNGOと協力してコミュニティをエンパワメントしていかなければならない。SWは少数者のニーズの優先に留意しなければならない。SWは共同体の精神的、宗教的、伝統的文化を理解する能力を持たなくてはならない。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop human resources development for community based disaster risk management of Asia from the perspective of developmental Social work. A study was conducted in collaboration with researchers and practitioners in Asia. Reconstruction assistance activities, must be one which is performed by people mainly affected by the disaster of the local, to promote the full participation of victims to reconstruction assistance. The social work profession must be careful to demand of minority. The social work profession should be aware of the priority needs of the minority. The social work profession must a community empowerment in cooperation with the NGO. The social work profession should be aware to understand spiritual, religious, traditional culture of the community.

研究分野：人文・社会

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：災害復興 社会開発 ソーシャルワーク ソーシャルキャピタル レジリエンス ストレングスアセスメント 当事者 コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

不幸にも多くの災害に見舞われるアジアにおいて、スマトラ沖地震・ツナミや四川大地震等の大規模災害を契機に災害発生時の緊急支援だけでなく、被災者を主体とした長期的な生活復興、減災に向けた社会開発的ソーシャルワークの重要性が認識され、中国、フィリピン、シンガポール等では災害リスク管理ソーシャルワーク教育が行われてきている。

研究グループはすでに中国四川大地震生活復興支援のための調査研究を行い、2009年および2010年の環太平洋社会福祉セミナーにおいて災害リスク管理・復興のソーシャルワーク会議を主催すると共に、韓国や中国の四川大学、北京大学等のソーシャルワーク国際会議において招待講演を行い、アジア環太平洋諸国の災害リスク管理にかかわるソーシャルワーカーと共同研究を行ってきた。

こうした中でアジアにおける災害リスク管理ソーシャルワークの重要課題は、制度化された都市型のソーシャルワークが機能しない、農村部や都市周縁部におけるCBDRMSWであることが明らかになった。

わが国でも JICA 等を通じて、減災や災害からの長期的社会開発の国際協力を行っているが、国内外における農村部や都市周縁部等における社会開発型ソーシャルワークとしての蓄積はまだ少ない。この分野のソーシャルワーカー人材育成プログラムを開発することは急務である。このために中国、フィリピン、シンガポールと CBDRMSW 人材育成プログラム開発を行う。

2. 研究の目的

本研究の目的はアジアの研究者・実践者と共同して、社会開発的ソーシャルワークの視点からコミュニティを核とする災害リスク管理ソーシャルワーク (Social Work for

Community based disaster risk management CBDRMSW) に対応した大学におけるソーシャルワーク人材育成プログラムを開発することにある。中国やフィリピンにおいては、将来 NGO の基幹スタッフとなる学生や NGO スタッフへのソーシャルワーカー研修を大学が担い始めている。シンガポールにおいても理論と実践からなるシラバスが開発されている。アジアの災害ソーシャルワーク講座や NGO が地域で行う参加型研修を分析し、アジアのソーシャルワーク高等教育機関における人材育成プログラムを共同開発する。

3. 研究の方法

中国、フィリピン、シンガポール、日本のソーシャルワーク研究・教育・実践者の研究体制を作り大学における災害リスク管理ソーシャルワークの教育プログラムを開発す

る。

当初は各研究者が当該国の CBDRMSW 人材育成の現状と課題について基礎調査を中心にまとめる予定であったが、東日本大震災が発災したため、海外研究協力者とアジア災害復興円卓会議を立ちあげ、各国研究者による東日本大震災での実践的復興支援にフィードバック可能なアクションリサーチを中心に行った。

4. 研究成果

本研究によって我が国では蓄積の少ない社会開発型ソーシャルワークとしての CBDRMSW 人材育成プログラムのための以下の知見を得た。

災害復興の人材育成は人間の復興 人権の回復のために復興支援者の養成である。被災した全ての人びとの人権を促進し、公平と無差別の原則に基づきながら、人権侵害のリスクが高い状態にある個人および人びとを優先して保護しなければならない。

復興支援活動は、現地の被災した人びと主体で行い、復興支援への被災者の参加を最大限促進するものでなければならない。あらゆるセクターでの復興支援について、コミュニティそのものが活動し、主体的に関わり、管理できるような環境を整える、コミュニティの自助およびソーシャルサポートを強める原則で行わなければならない。各共同体における適切な文化上・スピリチュアル・宗教上の癒しを行える環境を整えることが重要な課題である。

そのためにはソーシャルワーカー CD、NGO スタッフ、地域のリーダーおよびボランティアへの研修が必要となる。以下に留意して人材育成を行う必要がある。

ソーシャルワーク専門職は中長期の復興に向けてコミュニティそのものが活動し、主体的に関わり、ネットワークを形成し管理できるような環境を整える。「公助」、「互助」、「自助」という概念とその能力で規定し、それらの不足を「外助」つまり援助で補うという論理を防災援助の基本にする。

ソーシャルワーク人材育成については緊急時、中長期の復興支援に対応できる人材とそれを支える組織を整備する必要がある。災害に備えた人材派遣、地域防災組織、防災計画、資金計画をナショナル・ローカル多様なレベルで策定する必要がある。中長期の復興支援については従来の制度別ソーシャルワークの枠を越え社会開発型ソーシャルワーク、コミュニティ開発、コミュニティオーガナイズがができるソーシャルワーカーのあり方について考えて行かなければならない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件) 査読あり

山口幸夫 2013 「被災三県における外国籍等市民当事者による支援システム構築」
『居住福祉研究』 16号 pp21-30,2013

山口幸夫 2011 東日本大震災 大槌町の復興：居住福祉資源としての伝統芸能・祭 (特集 東日本大震災と居住福祉)
『居住福祉研究』 (12), 45-52, 2011-11

〔学会発表〕(計 14 件)

国際会議 (9)

山口幸夫 2014 減災のための社会開発
第 22 回環太平洋ソーシャルワークセミナー
東京日本社会事業大学 2014.2.17

山口幸夫 2013 災害と居住福祉環境整備と安全技術
第 11 回日中韓居住福祉国際会議 北京
2013.10.24

山口幸夫 2012 ソーシャルワーク災害支援人材育成 - 被災者とコミュニティを主体とする -
第 21 回環太平洋ソーシャルワークセミナー
東京 JICA 研究所 2012.11.4
(収録 Japan College of Social Work 2012 SOCIAL WORKER TRAINING FORDISASTER RESPONSE, pp103-116)

Yukio YAMAGUCHI 2012 Community Based Post-disaster Reconstruction
- Community development and revitalization of traditional cultural heritage -
"Urbanization and Urban Public Administration International Conference"
East China University of Science and Technology Shanghai China 2012.10.21

Yukio YAMAGUCHI 2012 Community Based Disaster Management In Sanriku Iwate"Regional Conference on Disaster Resilience, Social Inclusion, and Sustainability lessons from the Great Earthquakes in Japan, Indonesia, and the Philippines "University of Philippine 2012.2.23

Yukio YAMAGUCHI 2011 The Role of Social Workers in Disasters SOCIAL WORK For Community Based Disaster Risk Management

"21st Asia-Pacific Social Work Conference" Waseda Tokyo 2011.7.17

Yukio YAMAGUCHI 2011 Rebuild Resilience Community-What We Can Do: Local Community, NGO, the Government and International Social Worker Community "International Conference Social Policy and Practices in Disaster Responses-The Government and NGOs in Collaboration" 2011 Taiwan University Taipei 2011.6.13

Yukio YAMAGUCHI 2011 Rebuild Resilience Community "Social work and Social Policy", East China University of Science and Technology Shanghai China 2011.6.10

Masumi SHINYA, 2013 Building Resilient Communities Disaster Risk management and Social Development
" 22nd Asia-Pacific Social Work Conference " Manila, Philippines 2013.6.13

国内学会 (5)

山口幸夫 2012 被災地支援報告 コミュニティを核とする復興：地域福祉資源としての伝統芸能・祭：大槌町を例に
第 51 回社会福祉研究大会報告 2012.6.24
『社会事業研究』 2013 (52), 114-118

山口幸夫 2012 コミュニティを核とする復興
第 12 回日本居住福祉学会全国大会 2012.5.20 中京大学
『居住福祉研究』 2012 14 号 pp8-11

山口幸夫 2012 コミュニティを核とする災害リスク管理ソーシャルワーク
第 50 回社会福祉研究大会報告 2011.6.24
日本社会事業大学
『社会事業研究』 2012 (51), 20-26

山口幸夫 2010 多文化ソーシャルワーク散住地域における外国籍等児童の現状と支援に関する研究 2 2
第 49 回社会福祉研究大会報告 2010.6.29
日本社会事業大学
『社会事業研究』 2011 (50), 31-36

山口幸夫 2009 四川大地震生活住宅復興支援日中共同プロジェクト
第 48 回社会福祉研究大会報告 2009.6.28 日本社会事業大学
『社会事業研究』 2010 (49), 50-59

〔その他〕

ホームページ等

日本社会事業大学環太平洋社会福祉セミナー

<http://www.jcsw.ac.jp/international/kantaiheiyou-seminar/index25.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者 山口幸夫 (Yukio YAMAGUCHI)

日本社会事業大学 特任准教授

研究者番号：40440698

(2)研究分担者 新家増美 (Masumi SHINYA)

日本社会事業大学 共同研究員

研究者番号：20222367